

「センター野洲学園祭～『新時代 ～つぎへの一歩～』」 ～形を変えながらもいろんな人のいい笑顔が見られるイベントを～

びわこ学園医療福祉センター野洲 第1病棟生活支援員（学園祭実行委員長） 野並 弘恵



令和4年10月21日、澄み渡った秋晴れの下、恒例の学園祭が開催されました。昨年に引き続きコロナ禍であることや感染の流行状態などを踏まえ、ご家族やボランティアの皆様には参加いただけませんでした。学園スタッフと利用者で秋の一日を楽しみました。

施設外から来られる方がたの参加が難しいことや接触することでの感染リスクもあり、以前と同じような1日開催は難しいとの判断で、昨年度と同様、学園祭とは別の日に病棟ごとで、病棟オリジナルの学園祭イベントを行いました。

第1病棟はゲームコーナーを設け、散歩のときなどに楽しみました。第2病棟は開催日を2日に分け、グループごとそれぞれ工夫を凝らしたステージ発表等を楽しみました。第3病棟は外のステージを使って職員有志の出し物や利用者さんとの歌の出し物で楽しみました。

各病棟そろって参加したメインイベントが、学園祭恒例のHAMORI-BEさんのコンサートでした。昨年に引き続き、中庭にある外のステージで歌って頂きました。昨年HAMORI-BEさんが「中庭で歌った時の音の反響が良い」と言っていた場所での開催で病棟毎にゾーン分けして集まって参加しました。高野施設長の開会あいさつの後、第3病棟利用者さんの開会宣言、今年の学園祭テーマに沿った絵を描いた熱気球のテープカットをHAMORI-BEさんと第1病棟の利用者さんで行いました。その熱気球を各利用者さんに見て頂く為に利用者さんの中に入って練り歩きました。利用者さんによっては触って離せなかったり、触れてビックリされたり喜ばれたりしていました。



その後はお待ちかねのHAMORI-BEさんコンサート。素敵な歌声にどの利用者さんも良い表情をみせて下さいました。耳馴染んだ優しい童謡を中心に歌って下さり、利用者さんが好きな格好や場所に行き思っているように聞いていました。また体調が優れなくなり退席してもHAMORI-BEさんは優しく受け止め、気にせず聞いて下さいというような温かい言葉を掛けて下さいました。

コンサートの終わりには、第2病棟の利用者さんからお礼の歌をプレゼントすると、HAMORI-BEさんも喜んで下さいました。

コロナ対策をしつつ全病棟利用者の方々が揃って楽しめるイベントをするのは難しくなりつつあるものの、長年にわたって楽しまれてきた形を変えながらも続ける意味を考えての開催でしたが、どの利用者さんも職員も笑顔が多く見られたのは実行委員会にとってうれしいことでした。

来年はびわこ学園開設60周年に当たる記念すべき年となります。色々な課題はありますが、来年も利用者さんをはじめ、いろんな人のいい笑顔が見られるイベントとなる事を今から願っています。

